

千厩地区説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場
地区説明会（千厩地区）
- 2 開催日時 令和3年6月27日（日）午前9時30分から午前11時45分まで
- 3 開催場所 千厩市民センター
- 4 参加者 67人（傍聴者は、一関市議会議員1人）
- 5 事務局
石川隆明副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、
千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、
吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、
一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）
- 6 説明
 - (1) 第4回説明会までの概要について
 - (2) 新処理施設の焼却方式（案）について
 - (3) 新処理施設の事業方式（案）について
 - (4) 新最終処分場の漏水検知システムの導入（案）について
 - (5) 新最終処分場の浸出水処理施設の規模の考え方（案）について
 - (6) 今後の予定について
 - (7) 情報提供「日本のごみ処理～世界のごみ処理との比較～」

7 あいさつ

これまで組合では、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場の施設整備に関し、一関市と平泉町の住民の皆様を対象とした住民説明会を令和元年12月から昨年11月にかけて4回40会場で開催してきた。現在、昨日から29日までの予定で、5回目の説明会を開催しているところである。また、建設候補地を「弥栄字一ノ沢ほか」と「千厩字北ノ沢ほか」のそれぞれ1か所に絞り込んでからは、建設候補地周辺自治会の皆様を対象として、昨年12月から今年までの間に3回の説明会を開催し、ご意見をいただいていた。今回は、これらの説明会に加え、周辺自治会から要望があったことから、千厩地区にお住いの皆様を対象とした説明会を開催することとした。

本日は組合が検討を進めているエネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場について、これまでの住民説明会の概要や、検討してきた施設の内容、今後の予定などについて説明するほか、一般財団法人日本環境衛生センターから日本のごみ処理について情報提供する。

皆様には、不安に思っていることや疑問など、些細なことでも構わないので、率直なご質問やご意見をお願いします。

8 説明内容

(1) 第4回説明会までの概要について

第1回から第4回の住民説明会の概要について事務局より説明を行った。

(2) 新処理施設の焼却方式（案）について

焼却方式は、ストーカ炉を採用する案としたことについて事務局より説明を行った。

(3) 新処理施設の事業方式（案）について

P F I 導入可能性調査を実施した上で、最も適切な事業方式を選定することについて事務局より説明を行った。

(4) 新最終処分場の漏水検知システムの導入（案）について

漏水箇所の特定精度が高いことなどから、電気式検知法の採用を検討することとしたことについて事務局より説明を行った。

(5) 新最終処分場の浸出水処理施設の規模の考え方（案）について

雨水などの内部貯留が生じないことを原則とし、過去30年間の降水量データなどを基に、調整槽と水処理施設の設定した規模の組合せで水収支計算を行い、両施設が合理的な規模関係が得られるところでそれぞれの規模を設定する案としたことについて事務局より説明を行った。

(6) 今後の予定について

事務局より説明を行った。

(7) 情報提供「日本のごみ処理～世界のごみ処理との比較～」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 今回の事業に対して、反対行動を起こしている個人や団体はあるのか。

事務局 これまで住民説明会を40回、そのほか自治会説明会、土地所有者説明会などを開催した中で、不安を感じているというお話をいただくことはある。電話等では数件あるが、団体のような形で反対ということは特にはない。

参加者 本来なら12月か1月に今回の説明会をやるべきではなかったか。なぜ半年も延びたのか。

事務局 どなたでも参加できる住民説明会をこれまでも開催してきており、昨年11月の第4回住民説明会では、候補地を1か所に絞り込んだ経緯まで説明している。その後は、周辺自治会や土地所有者への説明会を開催してきた。今回の地区説明会は、新処理施設建設候補地の弥栄地区の周辺自治会の住民からの要望を受けたも

ので、同様に千厩地区でも開催することとしたものである。

参加者 千厩地区の住民は、最終処分場の建設候補地に北ノ沢地区が選定された経緯を知らないと思う。私は大反対である。千厩小学校建設の際には、駅から1.6kmの地点に建設するという提案が市からあったようだが、バイパスから約800mの北ノ沢地区に最終処分場をつくらうとする行政のセンスの無さを非常に残念に思う。第一次選考基準に、国有林を外すという項目があった。国有林には純粋な国有林や分収林などいろいろある。その検討もよくなされていないと思う。また、北ノ沢地区は都市計画区域内になるが、地域指定があるところから約600m、千厩高校から約500mのところである。公共施設や学校からの距離を1kmに、あるいは市街地域からの距離を1kmに伸ばすなどの条件にすれば、北ノ沢地区は外れる。建設用地としての情報提供が18件あったと聞いたが、本当にあったのか。最終処分場やごみ処理場を進んで誘致したいという人はいないと思う。評価結果も見たが、それも条件の重要度によって点数の配分が違うと思う。そうすれば、北ノ沢地区の点数が一番高くはならなかったのではないか。経済面では北ノ沢地区が安く済むが、千厩町全体の経済効果を見ると、その数倍の損失を被ることになる。一度清算して、最終処分まで一括してできるような施設を再検討し、市民の合意を得られる場所に決定するのが一番良いのではないか。

事務局 これまでの説明や検討状況については、説明会の開催や、ホームページへの概要の掲載、組合広報紙の全戸配布によりご理解いただけるように努めている。

住民からの土地の情報提供は、新処理施設と新最終処分場と合わせて18件いただいた。学校からの距離については、既に廃止された通知ではあるが、焼却施設の付近300m以内にはそのような施設がないようにという旧建設省の通知があり、選定の段階ではその通知を参考とし、条件に加えて選定している。

参加者 先ほど反対行動は起きていないと話があったが、周辺自治会説明会のときに、自分の気持ちを反対行動として話したつもりだった。北ノ沢地区には新しい家も建ち、最終処分場建設候補地の前にも建っている。そういう人の気持ちを聞いたことがあるのか。周りが賛成と言っている中で、不安な気持ちを話すことしか私にはできなかった。このような機会でも、千厩地区の方々の意見を聞いてほしい。参加者が知りたいのは、今までの選定の経緯であるので、再度説明してほしい。

事務局 この説明会は、そのようなご意見を伺うため開催している。本日もいろんなご意見をいただきたい。

参加者 自分たちもごみを出しながら、地元には最終処分場をつくるなというのは勝手な話だと理解しているが、いくら北ノ沢地区の問題だと言われても、北ノ沢

地区は生活圏であり、千厩町全体、生活圏の問題である。山を挟んですぐ隣に高校生が活動する場所がある。そのような場所を、総合評価で二重丸と評価したことについて、すごいと感じる。評価項目の「その他」は、おそらく住民が賛成しているという意味だと理解したが、皆さんを納得させられる方がいるということにびっくりした。候補地周辺に若い人たちが家を建てており、住むには最適な場所と思っている。そのような場所に施設をつくるのは近すぎるのではないか。その部分も詰めたうえで考え直すべきか、もう一度説明し、興味を持ってもらえるような環境をつくるべきではないかと思う。これから千厩町に根を下ろす若い人たちに、これがどういう意味を持つものか考えてもらいたい。

事務局 「近い」という話は、最終処分場のイメージが悪いために感じるものだと思う。最終処分場が公害の発生源になるような危険な施設でないことをご理解いただけるよう、これからも説明会を開催しながらお伝えしていきたい。建設候補地の評価項目のうち、「その他」は、広報1月発行の8ページの⑤の表に記載の「総合計画・土地利用計画との整合性」から「工事環境」までの項目で評価をしたという意味である。

参加者 今日は皆さんの意見を聞きたくて参加したが、会場の雰囲気からは反対のための集会であると感じた。公衆衛生組合の活動で、新しい施設を4、5か所ほど見学した。釜石市の施設は本当に素晴らしい施設で、煙突もない。そのような施設をこれからつくろうとしている。最終処分場も、公害や環境破壊のようなことは一切出ていないという話も聞いた。皆様にはそのようなことも踏まえて、公害や環境破壊のような悪影響が出るという考えはなくして、この施設建設について考えてほしいと思う。

参加者 新聞記事や広報をほとんど読んでいるが、北ノ沢地区に最終処分場がつくられることは知らなかった。どのようにして、北ノ沢地区と弥栄地区が候補地になったのかが分からない。最終処分場と新処理施設の違いも分からない。そのようなことも詳しくお話をいただければ、反対や賛成ということだけではなく、自分たちの生活圏の問題であるので、考えなければならないことである。昔、社会科見学で大東のごみ処理施設と水道局を見学したが、大東のごみ処理施設の排水は、川へ行っていると説明を受け、その後、水道局では川から水を引いているという説明であった。今回の最終処分場の水は北ノ沢川に放流されるということである。賛成や反対は申し上げないが、現状をしっかりとって、行政が住民の意見を聞いていただくことがまちづくりではないかと思う。

事務局 これまで説明会を開催してきたところであるが、周知不足もあるかと思うの

で、興味を持ってもらえるような対応をしていきたい。説明会は、決定した内容を説明しているのではなく、検討した案を説明し、ご意見をいただき、それをまた検討に取り入れていくということをしている。決まったこととして説明しているのではないという点をご理解いただきたい。

参加者 以前の説明会で、汚水は機械を通してきれいな水にして川へ流すと聞いた。機械の耐用年数は25年と聞いたが、もしも機械が壊れて川に汚水が流れてしまったときの住民へのお知らせの仕方や、対処方法の説明が欲しい。また、東山清掃センターの周辺住民は、公費で毎年健康診断を行っている。新最終処分場の場合も、公費での住民の健康診断の実施を考えているのか。

事務局 東山清掃センターの周辺住民の健康診断は、地元から要望をいただき、それに対して組合で検討して実施をしている。当然、東山清掃センターからは排出基準を下回った数値で処理して放流している。

水処理施設は、25年間も機械がそのままということはない。故障が出た都度、取り替え、修理する。また、最低2台の設置、あるいは倉庫予備を持っておくことで、1台故障しても大丈夫な形にしてある。機械であるので、数年経過すれば更新し、しっかり点検をして保守を行う。

参加者 一般廃棄物処理施設あるいは最終処分場は、私たちが生活する上で必要不可欠な施設であり、どこかにつくらなければならない。今から15年ほど前に、千厩の浄化センターがエスピアの前に建設されたが、あのときも建設場所について議論があったようである。しかし最終的には、皆さんの理解と周りの環境に配慮した形で施設ができ、今では誰も違和感はないと思う。このように私たちは正しい理解をする必要があると思う。最初は、地図上で選定した候補地が600か所くらいあったと聞いている。そこから時間をかけて1か所ずつに絞り込んだということであり、非常に重大に受け止めなければならないと思っている。協力していきたいと思うので、正しい理解をしていきたいと思う。その議論をする上で、不安や危険要因はまだまだあると思うが、みんなで冷静に課題を取り出して、それを一つひとつ解決していく議論が今は望まれているのだと思う。周辺の環境整備を含めて、6年後の稼働となると、一つひとつ大事な会議を重ねていかなければならないと思うが、安全で他に誇れる施設として建設されるよう、私たちは行政側に協力していく責務があると思う。そこで質問だが、地権者の説明会も実施していると思うが、差し障りのない中でその様子をお聞かせいただきたい。

事務局 地権者説明会を2回開催している。前回は地形測量、地質調査の実施といった内容について説明している。賛成、反対ということではなく、土地への立ち入り

許可など、皆さんから協力をいただきながら進めさせていただいている。

参加者 反対意見とともに、要望をお聞き願いたい。第1には、候補地は市街地にあまりにも近いということ。成長期を過ごす高校生が500m以内の距離で花や野菜を栽培している。また、若い世帯の住宅や田畑が耕作されている。新興住宅地として重要な地域であり、清らかな小川が流れ、千厩川に注いでいる。調べたところ、岩手県の埋立式の最終処分場は24か所あるが、北ノ沢地区のような市街地には一つとしてない。選定委員である多分野の学者の方々のお墨付きを盾として進めているようだが、この方々は、結局は行政のお抱えの学者である。施設を建てることを前提に調査していると思えない。豪雨や災害を考えても本当に安心安全なのか。最終処分場には危険な物質がいっぱいあり、国の基準があいまいで追いついていないという報告もある。ぜひ国有林等のあるもっと山の奥にしたい。

事務局 市街地や高校に近い、住宅があることについて懸念されているとのことだが、最終処分場は公害が発生する危険な施設ではない。イメージが先行していると思うが、そこについてはきちんと説明していきたいと思う。また、選定委員の先生方が行政のお抱えであるという話をいただいたが、先生方には各専門分野の見地からしっかり対応していただいている。

参加者 会の持ち方を考えてほしい。1時間30分の案内に対し、説明で計40分かかっている。残り50分での質問時間は少ない。資料があれば配布し、簡単に説明して、意見を聞いていただきたい。また、これからも意見を聞く機会を増やしていただきたい。昨日、千厩高校の運動場に行って見てきたが、近いと感じる。不快に思っている方がいるし、水田の水がどうなるのかという話もあった。多くの方の話を聞く、不安を払しょくするということであれば、千厩に限らず千厩高校のPTAの方々、あるいは高校生、千厩高校に行って説明してはどうか。

事務局 中身が多く、説明が長くなり申し訳なかった。質問の時間を十分確保できるように今後は進めさせていただく。千厩高校へ説明については、これからの検討となるが、いろんな方にご意見を頂戴する機会を設けていきたい。

参加者 北ノ沢地区は多くの評価項目が二重丸とあった。安全性に対しても大丈夫という説明であるが、平時のときには何もなければいいが、気候変動や地震により、安全だという保障は何もない。ましてや、クローズ型ではなくオープン型とのことであるので、何ミリの雨に対応できるのか、具体的な数字や対応を示してもらわないと不安が残る。何を基準にして安全なのか具体的な説明してもらわないとわからない。

事務局 具体的な状況や想定、それに対する対策を数値で示すということは、お話のとおりである。時間の制約もあるため全部を語ることはできないが、地震について説明させていただく。新処理施設のほうは、社会的な役割を果たすということから、普通の建物の1.25倍の耐震係数を持たせて、通常の建物よりも強度を高くする。東日本大震災のときに、当センターで現地に入って調査をした結果としては、津波により水没した施設もあるが、重大な被害を被った施設はほとんどない。津波により石巻の施設は水没したが、1か月くらいで復旧している。他の施設は、被害が軽微であったため早期に再稼働している。国でも災害に強い施設にするということで、基準を強化している。結果として、重大な被害がないという状況である。

参加者 今は線状降水帯がいつどこに発生するかわからない。それなのに、オープン型の最終処分場を高校のすぐそばにつくるというのは、千厩町民として未来の子供たちを守る者としては納得できない。豪雨が発生したときに、水を処理できるくらいの対策はなかなか難しいと思うので、せめて国有林のある山奥のほうに持って行っていただきたい。

事務局 豪雨については厳しい基準がある。先ほど30年間の気象データを基にしているという話をした。最近すごく雨がが多いという話であるが、1年間の降水量の最大は1991年である。短時間で集中して降ったとした場合、例えば500ミリ降ったとした場合、最終処分場自体に降った雨は、貯水池と同じように最終処分場内に一回溜まる。防災調整池というものがあるが、その中で降雨量を調整する役割がある。防災関係を十分配慮した形で設計する。

参加者 焼却灰は、いろいろな有害物質が凝縮されており、そこに降った雨水を吸い込み、貯水池に流れてくると思うが、貯水量をオーバーすることも考えられる。そのようなことも心配である。

事務局 知らないことが不安につながると思う。まずは本当に危険であるか、迷惑なものになるのか、一緒に勉強していただけないか。その機会を提供してまいりたい。

参加者 候補地を4か所に絞り込んだという説明会があったときに、このような学校や市街地に近いところをどうして選んだのか尋ねた。また、選定委員会の委員の教授はどこの誰かと尋ねたが、答えはなかった。

事務局 大学の先生方については、報告書にすべて載っているのだから、そのように回答させていただいている。

参加者 この情報をわからなかった方が結構いたようなので、お年寄りの方でインター

ネット環境などもない人もいるので、広報紙も、特に重要なことは抜粋ではなく具体的にもっと書いたら良いのではないか。そのほかにもFMアスモなどの手段があるのであれば、活用したらよいのではないか。

事務局 ホームページのみならず、組合広報紙についてもその都度、全戸配布させていただいているので、これからも発行していきたいと思う。できるだけ詳しい内容をお伝えしたいところであるが、これより詳しくとなると、かなりページ数が多い資料となるので、広報紙として皆様のご家庭にお配りするという手段には向かないと考えている。ホームページを見る方も見ない方もいらっしゃると思うが、ホームページであれば、いつでも資料を見ることができる。今日の次第に掲載している2次元バーコードを読み込んでいただくと、組合ホームページにつながるので、ご利用いただきたい。

参加者 一般廃棄物最終処分場ということだが、東日本大震災に、東京電力の関係の放射線に汚染されたものが、今どこに処分されていて、そういう処分も新最終処分場で行われるのかどうかを知りたい。

事務局 新最終処分場には、東京電力の原発事故で発生した農林業系廃棄物などを処理したものを持ち込む予定はない。舞川清掃センターには、国の指定廃棄物となっている焼却灰を一時保管している。一時保管であるので、最終的にはどこかに持って行って処分していただくことになる。農林業系廃棄物は、組合の担当ではないが、8,000ベクレル以下の汚染牧草については、大東清掃センターで一般の廃棄物と一緒に処理した。焼却灰については、東山清掃センターに埋め立てをして、しっかり管理している。

参加者 私達が出したごみなので、どこかで処分しなければならないということは重々わかっているが、私達の生活圏にある北ノ沢地区がなぜ選ばれたのか不思議に思っている。最終処分場は管理型だと思うが、調べたところでは遮水シートの耐用年数は15年であった。有害物質などは安定化を図る、窒素、酸、アルカリなどを含んだ浸出水も無害化して出すと言っていたが、想定外のことは本当にある。そのようなときに千厩川に水が流れると思うと、不安に思う。なぜ、北ノ沢なのか、北ノ沢を外していただきたい。これからも何回も話し合いを設けていただき、皆さんの意見を聞いていただければと思う。

事務局 説明の機会は十分にとっていきたい。

10 担当課 総務管理課

弥栄地区説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設・新最終処分場
地区説明会（弥栄地区）
- 2 開催日時 令和3年6月27日（日）午後1時30分から午後2時40分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター
- 4 参加者 4人（傍聴者は、一関市議会議員3人）
- 5 事務局
石川隆明副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、
千葉晃一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、
吉田健総務管理課施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事、
一般財団法人日本環境衛生センター5名（以下、日環センター）
- 6 説明
 - (1) 第4回説明会までの概要について
 - (2) 新処理施設の焼却方式（案）について
 - (3) 新処理施設の事業方式（案）について
 - (4) 新最終処分場の漏水検知システムの導入（案）について
 - (5) 新最終処分場の浸出水処理施設の規模の考え方（案）について
 - (6) 今後の予定について
 - (7) 情報提供「日本のごみ処理～世界のごみ処理との比較～」

7 あいさつ

これまで組合では、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場の施設整備に関し、一関市と平泉町の住民の皆様を対象とした住民説明会を令和元年12月から昨年11月にかけて4回40会場で開催してきた。現在、昨日から29日までの予定で、5回目の説明会を開催しているところである。また、建設候補地を「弥栄字一ノ沢ほか」と「千厩字北ノ沢ほか」のそれぞれ1か所に絞り込んでからは、建設候補地周辺自治会の皆様を対象として、昨年12月から今年までの間に3回の説明会を開催し、ご意見をいただいていた。今回は、これらの説明会に加え、周辺自治会から要望があったことから、弥栄地区にお住いの皆様を対象とした説明会を開催することとした。

本日は組合が検討を進めているエネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場について、これまでの住民説明会の概要や、検討してきた施設の内容、今後の予定などについて説明するほか、一般財団法人日本環境衛生センターから日本のごみ処理について情報提供する。

皆様には、不安に思っていることや疑問など、些細なことでも構わないので、率直なご質問やご意見をお願いします。

8 説明内容

(1) 第4回説明会までの概要について

第1回から第4回の住民説明会の概要について事務局より説明を行った。

(2) 新処理施設の焼却方式（案）について

焼却方式は、ストーカ炉を採用する案としたことについて事務局より説明を行った。

(3) 新処理施設の事業方式（案）について

P F I 導入可能性調査を実施した上で、最も適切な事業方式を選定することについて事務局より説明を行った。

(4) 新最終処分場の漏水検知システムの導入（案）について

漏水箇所の特定期間が高いことなどから、電気式検知法の採用を検討することとしたことについて事務局より説明を行った。

(5) 新最終処分場の浸出水処理施設の規模の考え方（案）について

雨水などの内部貯留が生じないことを原則とし、過去30年間の降水量データなどを基に、調整槽と水処理施設の設定した規模の組合せで水収支計算を行い、両施設が合理的な規模関係が得られるところでそれぞれの規模を設定する案としたことについて事務局より説明を行った。

(6) 今後の予定について

事務局より説明を行った。

(7) 情報提供「日本のごみ処理～世界のごみ処理との比較～」

日環センターより情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 弥栄地区説明会の開催は初めてか。今後も開催していくのか。

事務局 弥栄地区説明会は今回初めてである。今後も地元組織、自治会長と相談しながら開催していきたい。

参加者 1か所に絞り込んだことについて、令和3年1月号のくらしの情報に掲載があり、各戸配布されているが、これに目を通すことはほとんどないと思うので、今回の第1回目の説明会では、絞り込みの経過について、具体的にお話しいただきたいかった。

事務局 なかなか浸透していないという面はあるかもしれないが、このような説明会を開催することで解消していきたい。自治会などで具体的な説明がほしいという要請があれば対応しているので、活用いただきたい。

参加者 環境影響評価をこれから行うと思う。これまでの一関と大東の清掃センターの施設を1か所にするというのであれば、交通量が多くなるのは当たり前だと思うが、現状では、東磐井から建設候補地へのルートは北上大橋を通るルートのみ。周辺自治会説明会では一ノ沢地区内の建設候補地周辺の道路が話の中心になっているが、花泉から国道284号につながる弥栄金成線の交差点の交通量も多くなると予想される。小学校も幼稚園もあるので、子供の通学路の安全という面から、もっと広く環境影響評価を行う必要があると考えるので、検討していただきたい。

事務局 国道284号の交通量の増加については、皆様からご心配をいただいている。交通量が増えることに伴う右折レーンの設置のほか、歩行者の安全対策も考える必要があるという意見もいただいております、総合的に検討する必要があると思っておりますが、当組合は一部事務組合であるため、国道284号などの道路については関係機関へ要請するといった対応となる。

交通量については、環境影響評価においても重要な評価項目になると受け止めている。交通安全対策については、環境影響評価の中で実施する説明会等において、意見交換をしていければと思う。ごみ収集車だけでなく、施設の建設工事の際の交通量も含めて調査を行い、対策について意見交換していくことになる。

参加者 施設に出入りする車両の増加により、渋滞が発生することが心配である。

事務局 現在の一関と大東の2つの清掃センターに出入りしている車両台数は、2施設合わせて1日150台程度であり、往復で300台程度である。おおよそ9時から16時半までの時間帯で300台程度の交通量の増加が見込まれるが、環境影響評価において調査を行い、説明の上、意見交換をして対策を立てながら進めていきたい。

参加者 施設をつくるにあたって、施設見学を考えているか。

事務局 施設を実際に見ていただくことにより、理解が深まると思うので、見学の機会を設けたいと考えている。

10 担当課 総務管理課